

平成18年度専門技術者講習・試験

1367人が合格 可搬形が大幅増

内発協

内発協では、平成18年8月から11月にかけて、札幌、仙台、東京、名古屋、富山、大阪、広島、高松、福岡、那覇の10都市で開催した「平成18年度自家用発電設備専門技術者講習・試験」の合格者として、このほど、合計1,367人を決定した。それを受けて、既に合格者に対しては個別に合格証書の送付を行った。

平成18年度の新規講習・試験の合格者数は、自家用発電設備専門技術者850人、可搬形発電設備専門技術者470人、科目別受験合格者47人となり、合わせて1,367人となった。一方、自家用発電設備専門技術者資格保有者が、装置の設計や製造(S)、据付工事(K)、保全業務(M)の3つの業務区分の中から、未取得の業務区分のみを追加受験する業務区分追加受験者は18人で、受験者全員が合格となった。

平成18年度の新規講習・試験の特徴として、建設工事現場などで移動用発電設備として使用される可搬形発電設備に関する管理業務、保全業務に従事する「可搬形発電設備専門技術者」については、受験者数が前年度より289人多い482人と倍増した。

受験者が倍増した理由としては、平成18年に出された移動用発電設備の取り扱いに関する通達により、建設工事現場等における電気主任技術者の選任を未

だ行っていないなかった建設業関係者への注意が喚起されたことによる影響と思われる。その結果、建設業関係者からの受験申込者数の



9月開催の東京会場で

大幅な増加につながったとみられる。(12ページにアンケート調査結果を掲載)

また、消防用設備等の非常電源として設置される定置式自家発電設備に関する装置の設計や製造、据付工事、保全業務に従事する「自家用発電設備専門技術者」については、新規受験者数は前年度より56少ない917人だった。一方、前年度に特定の科目が基準点に到達しなかったため自家用発電設備専門技術者試験に合格できなかった受験者が次年度に基準点に到達しなかった科目のみを再受験する、「科目別受験者」については、49人が受験した。

なお、合格者の選考方法については、12月11日開催の専門技術者審査委員会によって全受験者の試験結果をもとにした合否判定が行われた。その後、判定結果に対する当会会長の承認を経て、合格者として1,367人が正式に決定されたもの。

国土交通省の指定建設機械 発動発電機は合計24型式

国土交通省は12月21日付けで、排出ガス対策型建設機械として、第2次基準値をクリアした一般工事用19機種計50型式とトンネル工事用2機種計2型式を、第3次基準値では一般工事用5機種計34型式とトンネル工事用1機種計1型式を追加指定した。そのうち、発動発電機は日本車輛製造、新ダイワ工業、北越工業、デンヨー、ヤンマー建機の合わせて12型式。また、22日付けで、低騒音型建設機械として、10機種計79型式(うち超低騒音型6機種計33型式)を追加指定した。そのうち、発動発電機は日本車輛製造、デンヨー、新ダイワ工業、北越工業の合わせて12型式だった。

今回指定を受けた「発動発電機」は以下のとおり。

1. 排ガス対策型建設機械(2次基準値)

日本車輛製造(株)	NES60AP	定格容量(kVA)	60
新ダイワ工業(株)	DGM250UMI	定格容量(kVA)	25
北越工業(株)	SDG25S-7A7	定格容量(kVA)	25
	SDG45S-3A7	定格容量(kVA)	45
	SDG45AS-3A7	定格容量(kVA)	45

2. 排ガス対策型建設機械(3次基準値)

デンヨー(株)	TLG-15ESX	定格容量(kVA)	15.0
	TLG-18ESY	定格容量(kVA)	18.0
	PCX-70ES	定格容量(kVA)	3.0
北越工業(株)	SDG13S-3B1	定格容量(kVA)	13
ヤンマー建機(株)	AG13SS	定格容量(kVA)	13.0
	AG15SS	定格容量(kVA)	15.0
日本車輛製造(株)	NES13EK-3	定格容量(kVA)	13

3. 低騒音型建機指定(超低騒音型)

日本車輛製造(株)	NES13EK-3	定格容量(kVA)	13
	NES60AP	定格容量(kVA)	60
デンヨー(株)	GAW-185ES	定格容量(kVA)	3
	GE-900SS-IV	定格容量(kVA)	0.9
	GE-2000SS-IV	定格容量(kVA)	2
新ダイワ工業(株)	DGM250UMI	定格容量(kVA)	25
	IEG2600M	定格容量(kVA)	2.6
	EG38MT-E	定格容量(kVA)	3.8
北越工業(株)	SDG13S-3B1	定格容量(kVA)	13
	SDG25S-7A7	定格容量(kVA)	25
	SDG45S-3A7	定格容量(kVA)	45
	SDG45AS-3A7	定格容量(kVA)	45

分散型エネルギーシンポジウムを開催 産総研

独立行政法人産業技術総合研究所は12月8日、第三回分散型エネルギーシンポジウムを新霞が関ビルで開催した。シンポジウムでは、分散型電源システムの活用によるCO₂排出量の削減を目指して、大学機関の研究者が最新の研究成果を報告した。具体的には、地域単位や集合住宅単位で自家発電設備、コージェネレーション、燃料電池、太陽光発電、風力発電など複数の分散型電源と系統電源との効率的な運用を図るマイクログリッド手法などについて紹介した。